

Title	質疑欄
Author(s)	H.
Citation	天界 = The heavens (1936), 16(179): 194-194
Issue Date	1936-02-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167173
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

質 疑 欄

〔問〕 小遊星806番 Gyldenja の軌道要素、その他発見者、名付けの理由等御教示下さい。

因みに此度愛知縣下を主とする曳馬天文研究會を作るについてその會誌名を Gyldenja とする事になりました。(愛知 寺町忠行)

小遊星 Gyldenja (806) は1915年4月18日彼の有名なる天體寫真家 Max Wolf の發見したものである。1915 WX と云ふのが其の假りの名であつた。Gyldenja と云ふ名前は1926年頃に附けられたものである。Gylden と云ふのは瑞典の有名な天文學者の名である。(Hugo Gylden 1841年5月29日ヘルシングフォルスに生れ、1871年にストックホルム天文臺の臺長となり、1896年11月9日同所に於いて死去せり。天體の運動に關して種々の研究がある)。Gyldenja とは Gylden の名を女性化せるものである。小遊星の名前をつける際に、有名なる人物の名を女性化して用ひると云ふ方法は小遊星の命名法として屢々用ひられて、標準光度(g)は9.3等級、對衝に於ける平均光度は13.5等級である。Raynal の計算せる軌道要素は下の如し。M₀ (起時は1925年1月1.0日萬國時)=291.°768, ω =96.°749, Ω =45.°530, i =14.°181, φ =6.°106, μ =621.〃450, a =3.1945(但、春分點は1925.0), 軌道要素より見れば別段特異性のある小遊星ではない。此の軌道要素は本年度の Kleine Planeten に據るけれども、昨年度のものと同じである。昨年10月下旬の衝に於ける O-C は $\Delta\alpha=+0.3^m$, $\Delta\delta=+1'$ の程度であつた。

(H・Σ)

昔 の レ ン ズ

レンズの發明は支那、印度、アツシリア、埃士等に古くからあるので確かな事はわからぬが、水が物を廓大して見せることから暗示を受け、往古の寶石師が水晶等を加工し、磨き上げて作つたものらしく、古代の王宮の廢墟から之を發見したことがあり、古代のレンズは恐らく水晶ばかりで出来てゐたものらしい。

正

誤

一月號末頁の1936年曆表の季節の項目中

小寒の日時は 1月6日20時52分 と訂正

小暑の日時は 7月7日17時 9分 と挿入されたし。